

- 3.0 生き物の Q
- 3.1 Even if I Swim or swim
- 3.2 夜釣り（まっくらまんなかそのまんま）
- 3.3 回想→回想←回想
- 3.4 A（20 years later）

### 【3.0 生き物の Q】

私は自分にいくつかの Q を持っている。

私は何が好きなのか、何が嫌いなのか、なぜ何もしてないのに時間がないのか、なぜ時間がないのに充実してないのか、なぜ充実してないのか、なぜ楽しいことがないのに人生が嫌にならないのか、なぜ悲しいことがないのに人生が楽しくならないのか、なぜ人と気が合わないのか、なぜ内林は私と仲良くしてくれるのか、なぜか内林は私と一緒にいてくれる。向こうがどう思ってるかはよく知らない。

私が毎朝迎えに行くと内林が嫌がっても居座って、無理矢理手引っ張って一緒に学校に行く。2人とも少し俯いて歩く。言葉はない。学校に着く前、2人の時間が終わる頃、私は内林に感謝を伝える。「ありがとう」「え、あ、こちらこそ」「え、あ、じゃねえよ、またね」と言って校門の前でわざと分かれて、その後学校では一言も交わさない。帰りもバラバラ。向こうに迷惑掛けたくないから。行き道だけの親友は直接的に私を救ってくれている。

私は内林と分かれた後、学校の裏のお寺に寄って少しさぼる。こじんまりした本堂に腰掛けてあぐらを組んで、罰当たりだなあとすると不思議と落ち着く。木を手でなぞっていると、歪なでこぼこを見つける。それは明らかに誰かが彫ったもので、私より罰当たりなやつもいるもんだなあとと思うけど、カタカナで「ヘンジンイケノシネ」とある。彫られた木の溝がまだ綺麗な薄黄色だから、これはきっと最近彫られたもので、こんないたずらはうちの学校の

誰かとしか考えられない。

それで、ヘンジンイケノとはおそらく同じクラスの池野朔太郎のことだとすぐに分かった。池野は確かにクラスで悪目立ちするタイプで、特に誰ともつるまないで敵はいても味方はいない、孤高の存在と、いうよりはかなり浮いた、給食の牛乳を6本飲んで吐くようなやつだった。だけど、誰にも頼らないその生き様に、その不器用に、ある意味での親近感のようなものがないわけではなかったけど、そこに、それに続くように「ツイデニタバタモ ワライ」とあったのはさすがに想定外で、あんまり普通に、ショックだった。田端小雪、私も同じくらいクラスから浮いているのは認めるけど、何にせよ、笑うなよと。

### 【3.1 Even if I Swim or swim】

1人 辛いなんて思ったことない 暗い根が 性格の問題？

尋ねたって誰も答えない 謎なんてない 単純明快 結果が正解

描いた未来 いや描いてない そもそもない 色合い 輪郭 中身も外も

見たい自分が 影に消えて きっと笑っている 私のことを

Even if I Swim or swim

Even if I Swim or swim

Even if I Swim or swim

泳いでも 泳いでも

誰かが言う 未来待ち遠しい バカバカしい 立たない見通し

そんなの ないに等しい この瞬間 今だけが愛おしい

お母さんのお弁当が美味しい 理科の坂田の小テストしつこいシーン

私みたいでむかついて蹴った小石 川辺に落ち跳ねた飛沫が恋しい

Even if I Swim or swim

Even if I Swim or swim

Even if I Swim or swim

泳いでも 泳いでも

何気なく 今の自分にある感覚 「耐えてる」ような罪悪感

うざい悪魔 生まれ変わったら訴えたい無罪

今の自分にはどうしようもできない 今回は諦めて世界を敵対

しながら生きるしかない究極は この無力感

Even if I Swim or swim

Even if I Swim or swim

Even if I Swim or swim

泳いでも 泳いでも

だけど 誰かに咎められたくない これは考え方の違いなだけ  
前向き押し付けられるだけ 嫌になる 求めてない手を伸ばさないで  
私は合っても間違ってもいい ただそれしか選べないってだけの話  
わざわざ合わせたり下手にしたりしないし 言い訳も勇気も少し足りない

Even if I Swim or swim

Even if I Swim or swim

Even if I Swim or swim

泳いでも 泳いでも

プラネタリウム眺め考える 笑ってもいいよ 私が生まれた理由  
お母さんのお腹の中 記憶は細い川 その向こうにアスファルト 道路  
大人は労働 子どもは平等にお菓子分け与えられず泣き出した  
私はその川 泳ぐおたまじゃくし 向こう岸にある光に託し 闇を隠し

Even if I Swim or swim

Even if I Swim or swim

Even if I Swim or swim

泳いでも 泳いでも

ようやく岸に辿り着いて 順番に命に名前が付いて  
私はついで、みたいに見えた 神様は無愛想 下手なアイコンタクト  
いよいよ送り出される現世 ここでは天地逆さまに建設  
上に落ちる 下に飛び上がる 海に浸かれれば身体は乾く

もう少し知りたいほんとうのこと 記憶はここまで混沌の午後  
朝しか合わない連れないアイツ 思い出して取り出す冷たいアイス  
私は何かを見て見ぬふり 私は何かのみテイクフリー  
私はだれかを魅了しかねる 私はだれかを見よう見まね

Even if I Swim or swim

Even if I Swim or swim

Even if I Swim or swim

泳いでも 泳いでも

### 【3.2 夜釣り（まっくらまんなかそのまんま）】

「小雪」「あ?」「小雪だろ、田端小雪」「だれ」「俺、池野」「池野って池野、クラスの」「そうそう朔太郎」「あっそ」「小雪さあ」「下の名前で呼ぶな」「だってそう呼ばれてんじゃん」「呼ばれてないし」「え、呼ばれてなかったっけ」「呼ばれてないし呼ばれてたとしてお前が呼ぶなきもい」「クラスメイトじゃん」「喋ったことないじゃん」「あるよ2回くらい消しゴム借りたよ」「知らないよ覚えてないしなよそんなこと」「覚えてないなら分かんないでしょうが」「消しゴム私持ってないもんシャーペンの上の小さくて消しにくいやつしかないもん」「それを借りたよ」「嘘付け今消しゴムって言ったじゃん」「それも消しゴムだろお前が勝手に MONO みたいな想像してたんだろ俺は最初からその話してんだよ」「嘘付け」「嘘じゃねえよ、あのときはありがとな」「やめてって気持ち悪い」「まあまあ、善人ほど知らないところで感謝されてんだよ」「なにそれ切るね」「おいちょい切るな」「切るよ」「釣り行かない?」「はあ?今から?」「今から今から、夜の方がいいのよこういうのは」「そんなの聞いたことない」「俺が教えるからさ、釣りいこうぜ」「なんで、なんで?」「なにが?」「なんでわたし?」「別になんだっていいでしょう理由なんかなきゃいけない?自意識過剰か」「だって怖いじゃんいきなりこんな時間にさあ」「大丈夫だってうちのすぐ近くだから何かあったら父ちゃんも母ちゃんもいるからさ」「はあでも」「暇でしょいいじゃんたまには」「でも」「お前いつも教室でぼーっとしてるだろ、そういうやつは向いてんだよ、ぼーっと待つことが大事だから」「でも」「まあいいよ一回家の下迎え行くから、チャリある?」「ある」「木が向いたら降りてきてみ、10 分後」「なんか」「なに」「なんでもない、行かないよ」「おっけー10 分後な」電話を切って気付いたが、私を小雪ちゃんと下の名前で呼ぶのが一人だけいた。内林だ。内林だけはなぜか最初からずっとそう呼んでくれる。だけど、内林とは校門の前で解散してるし、そのことを池野が知ってるわけないからやっぱり変わったやつであることに変わりはない。10 分後、私はまんまと池野の誘いに乗って、自転車で、近くの海まで走り出す。向こうは一人かと思いきや違う学校の友達と一緒に、なんだ私を感じてた親近感は、ただのまやかしはりぼてで、池野はまったくただのネアカで、私はむかついて、だったらもうと開き直って私は、釣りのひとつやふたつ付き合っ、自分の自尊心を徹底的に傷つけやろうとまで思ったのが 19 時頃、外はすでに暗くて、数台の自転車のライトが眩しくて、私は素直にワクワクした。そのとき、夜に飲み込まれて行く不安と自身の存在を消される安心が、同時に起こったのだった。

澄み切った空気 夜は涼しい 電柱の電灯 よく鳴く虫  
いつもの家々 顔を変えて 無用の信号 赤と青の回転  
今日は特別 私からしたら 池野の頭 無数の若白髪  
知らない男子の視線に惑う わけもなくひたすら自転車を漕ぐ  
池野がバカ言っ て 男子が笑っ て 私も段々面白くなっ てきて  
気付いたら声を出して 意気投合 これは美化した過去じゃなくギリ本当  
気だるいだけの学校の日々が嘘みたい 正しさ強さ美しさきれいごと全部クソみたい

誰もいない港 何もない水面 互いに語り出す 皆の今を  
ポケットにチョコ リュックにガム いつもより味がする ゆっくり噛む  
そいつが言う「田端、学校じゃ孤独だから」 この下 ひっそり泳ぐ魚  
「池野にだけは言われたくないし 私は別に無理したくないだけ  
だって世界はそうやって出来てない 夜は夜で勝手に暮れる いつものこと」  
ムキになって 言い返した 腹立たしさの倍 空しさ去来した  
その騒がしさに勘付いて 生き物は去っていく ここにはでも私だっている

人は 見えないものしか見えない 名も無い夜に 名無しの夜釣り  
不安が浮かんだ2人のはぐれもの 透き通った時間は奇跡やまぐれのように  
だって何一つ解決してないQ お寺の落書き 池野はどう思う？  
池野は黙っ て ただ水面を見てる 無視すんなど小突いても 沈黙突き通してる  
何も思わないの？ 何も思わないよ そうなんだ そうだよ  
今はどう思っ たっ てしょうがないよ 魚に心は無いよ それと同じこと  
だから誘っ たの そうじゃないよ 別にそんなんじゃない ただ…

池野の友達は1人、また1人と帰っていく。私たち2人は視線を平行に保ったまま、何も起きない海を眺めながら、哲学めいた言い訳をお互いに披露し合っ て、途端普段の自分を思い出して恥ずかしくなっ て、頭を押さえつけられ溺れていくようなどうしようもなさで、これは変なあれだけど、それすらまんざらでもない感じがあっ て、ふわふわ夜の冷たさに侵されながら、潮の匂いに優しい気持ちが起きていた。それはきっと池野もそうで、その証拠に、こっちを向かずに海よりももっと遠く、白んだ山の方まで視線をあげて、鼻をくんくん動かしては「はあ」とため息をついて、深呼吸して、田端なんか誘うんじゃなかったと言わんばかりにむずむずして退屈を押し殺しているように見せていたけど、本当は私が気になっ て、だっ けどこっちを向いてしまっ たら、釣りの糸が出逢っ ては絡まるように、取り返しのつかない面倒臭さを想像しているようで、こっちを向きたくても向けない一度始まっ た沈黙を破りたくても破れないむずがゆさが、この平行の時間を豊かに保っていたのだっ た。

### 【3.3 回想→回想←回想】

それから 20 年経って、正直内林の下の名前も忘れていて、ただそれでも一言だけ、内林が言ってくれたことを保存している脳の部分がある。

その部分は今でも熱くなったり膨らんだりして、私に忘れてくれるなど訴える。

私は自分の頭が膨らんでいるのが面白くて、しばらくほうっておく。

そうすると次第に痒くなって来て、中で虫が這っているようなジュワジュワ感がする。

彼女は私に「あなたは特別」だと言った。私の何が特別なのかは教えてくれなかった。でもそれは内林にとってであって、世間一般に通用するものではもちろんなかったし、特別って言葉が本来ないはずの特別さを捏造してただけで、結局言いたかったのは「田端小雪は変わってる」という学校内での共通認識であって、

それならほかの連中が言っていたことと大差ないし、わざわざ脳に保管もしない。だから私はここで、内林の言う特別は、内林が言う前から、内林の心の中で、あるいは言葉の外で、名付けようの無い気持ちとして、意味になる前の意味として、本当に特別なものだったのだと、やっと感じることができる。

ぐるぐる巡る 回り続ける 高速回転 景色が溶けて 流れて馴染む  
日々が入れ替わる あの日 その次の日 一日を跨いで 意味を剥いで まだ考える  
元々戸惑っていた このサイクル この退屈 どこにある苦痛 どこにある普通  
ここにこういうふうにいようとすると すぐ腐っていく自分の今の居場所

死んだって消えない 私の罪と歴史 だったらどこに行くのか 物語を突き止めに  
回想シーン 回想シーン 回想シーン 今は必要以上に抱えそう  
繋がる記憶 行き違い どんな小さなミスも許せない 静かな朝 目を閉じて呻く

何があっても どこにもいない  
誰がきても ここにはない  
声は見えない 出逢うまでは  
ただなんとなく

何があっても どこにもいない  
誰がきても ここにはない  
声は見えない 出逢うまでは  
ただなんとなく

それから 20 年経って 正直内林の下の名前も忘れていて  
なぜなら遊んだ記憶や喋った記憶がない ましてや顔もよく見たこと無い  
誰と仲良くて 誰を好きで 誰を嫌いだったのか それはなぜなのか

恋はしていた？ 授業はきいていた？ 筆箱のキャラクター お気に入りのガラクタ  
アクセサリ ワッペン 髪型 血液型 好きなお菓子 料理 行為 興味  
ただ記憶にあるのは通学の 毎朝 2 人きり 風景は自分のつま先と砂利道

廊下ですれ違うことならあったけど その時はきっと私が避けていたのかも  
表情見るのも怖いから伏し目がち あーわたしちってなんてついてない！  
同じ方向に家があっただけ どちらもがもうやめようって言えなかっただけ

存在のない私の今日までと どこかにいるあなたの今日までの  
どっちが特別か 比べるまでもない  
だけどあなたが教えてくれなかったら 些細な私の特別を 私は見逃してた  
あなたが教えてくれなかったら 些細な私の特別を 私は見逃してた

それだけが 30 数年の人生の支えで 今も私は何かを見逃しているかもしれない  
何かがここにあるかもしれない 私の中に ほんの粒みみたいな ひとかけらの何かが  
私の 9 つの Q に対しての A そう思えるおかげでギリギリ自分を愛しておける  
ありがとね

#### 【3.4 A (20 years later)】

あとひとつ 2 人でときどき 歌った鼻歌 私が教えたその歌  
私がお母さんから聞いた歌 毎日歌った そればかり ひたすら  
内林 まだ覚えてるかな 忘れてるならいつか思い出せるかな  
まあでも そのままでもいいや あの時があるから 私が思い出せるから

今じゃ活動してるかどうかすら知らない 私が好きだったバンドの  
今じゃもう歌詞も メロディーも 曖昧で  
ちょっと口ずさんでみようかなと思う時はあったけど そのたびに  
だめだよやっぱり思い出せない あーあふたりの歌だったのに